

総合研究博物館 標本整備・保存・活用プロジェクト

ご寄付のお願い



発見を生む 
コレクションを、
次の100年へ。

九州大学総合研究博物館には、約170万点の標本があります。
それは、地球の歴史と生物多様性、人類の営みを記録した「証拠」です。
しかし今、その多くが十分に守られていません。
次の100年へ、この知の財産を福岡に、世界に残すために――。



骨格動物園！

この中から、毎年新種が
見つかっています

いなくなってしまった魚も

！ 展示の前に、標本を守る必要があります！

古い標本が劣化している

収納環境が不足している

修復・整理が追いついていない

あなたの寄付ができること

標本の保存・修復

収蔵環境の改善

次世代への継承



1万円から、
未来の発見を支えられます。

Please make a donation.

https://kikin.kyushu-u.ac.jp/info/news/view.php?page=1&r_search=&r_division=0&cid=2432

博物館事務室 電話：092-642-4252

メール：office@museum.kyushu-u.ac.jp



標本整備・保存・活用プロジェクト



九州大学は世界有数の学術標本を有しており、九州大学総合研究博物館ではその中核となる膨大な資料の保存・管理・研究・活用を担っています。これらの標本は、過去の自然や生物の姿を

伝えるとともに、将来の新たな発見を生み出す「知の基盤」です。一方で、100年以上前に収集された標本も多く、保存環境の老朽化や未整備が課題となっています。標本の劣化や情報の喪失は、取り返すことのできない学術的損失につながります。

本プロジェクトは、これら貴重な標本を次の100年へ確実に引き継ぐため、収蔵環境の整備、保存・管理体制の強化、研究・教育・展示に活用できる基盤の構築を目的としています。第1期では昆虫・貝類・魚類・動物骨・植物などの生物標本を対象に、収納設備の更新や保存処理を進めます(第2期で他の資料を予定)。

標本は、生物多様性を記録する「証拠」であり、人類共通の財産です。本事業を通じて、その価値を未来へとつなぎ、学術研究と社会への貢献をさらに発展させていきます。

なぜ 重要なのか

標本は、生物多様性の“もっとも重要な証拠”です

- ▶ いつ・どこにいたかを示す確実な記録
- ▶ 新種発見の基盤
- ▶ 応用的な利用などの可能性



この標本から毎年多数の新種が見つかっています。まさに宝の山です。

丸山 宗利 分析研究部門・准教授



昆虫：毎年20種以上の新種を発表



魚類：絶滅・激減した魚の記録



植物：戦前の調査の記録



動物骨：現在では入手困難な標本ばかり



貝類：生物多様性を実感する美しい標本

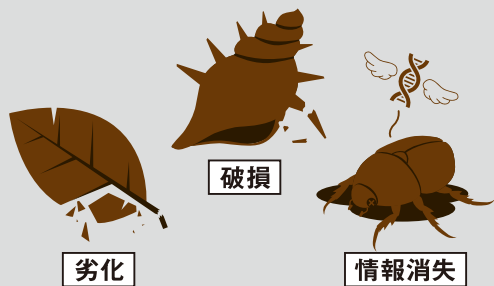


動物剥製：絶滅したニホンアシカ



放置すると どうなるか

- ▶ 劣化や破損により標本の情報が失われ、研究や展示に使用するのが難しくなります。



ご寄付の具体的な活用例

標本箱・収納ケース更新、保存処理・修復、収蔵展示設備等



古い標本箱に入れられた整理の進んでいない昆虫標本



新しいドイツ型標本箱に整理され、棚に配架された昆虫標本



企業様・法人様へ：社会的意義

ESG・CSR への具体的貢献 ▶ 生物多様性保全 / 学術研究支援 / 教育・文化資産の継承等

返礼について

金額	内容
全員	博物館ニュース・オリジナルグッズ
2万円以上	標本箱・収納ケースにお名前を明示
5万円以上	収蔵庫・バックヤードツアーなどイベントへのご招待
10万円以上	常設展示室入口銘板での顕彰
100万円以上	標本収納棚にお名前を明示



▲お名前明示イメージ(標本箱/収納棚)

募集要項

期間	2026/5/24 ~ 2030/3/31
目標額	¥30,000,000
金額	個人一口1万円 法人・団体一口10万円~(何口でも可)

▼ご支援はこちらから



1万円から、
未来の発見を
支えられます。

Please make a donation.



九州大学総合研究博物館
The Kyushu University Museum

https://kikin.kyushu-u.ac.jp/info/news/view.php?page=1&r_search=&r_division=0&cid=2432